



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
 代表：土屋 至
 発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42
 聖パウロ女子修道会内
 TEL 03-3479-3941 E-mail：info@signis-japan.org
 http://signis-japan/org/

主のご降誕をお祝いいたします！



子どもの頃は、今よりもっとクリスマスを心待ちにしていた気がします。それは欲しかったプレゼントをもらえたからでしょう。でも、幼子イエスがこの世に生まれたことが、何より大きなプレゼントであること、神様から目に見えないたくさんの贈り物を頂いていることを、私たちは知っています。

時に暗闇に見える今の世界ですが、まことの光につつまれた幼子イエスの誕生を子どものような素直な気持ちと笑顔で喜びたいと思います。

シグニス ジャパン勉強会

11月12日（土）サレジオ会調布修道院の教室をお借りして「シグニス勉強会」を行った。参加者は晴佐久神父、千葉茂樹名誉会長はじめ9名とちょっと少なかったが、大変有意義な勉強会となった。

午前中は、SIGNIS World 作成の内部用説明資料「シグニス・インフォメーションキット」をみなで読み合い、シグニスの全体と各項目について勉強した。構成と会員、歴史、活動と目標、映画、ラジオ、テレビ、メディア教育、シグニス刊行物、シグニス・ロゴなどについて詳しく説明があり、初めて知ることも多く、SIGNIS がグローバルな組織であることを改めて認識させられた。更にプロジェクト助成の仕組みについて図表を使っての解説があり、仕組みがよく理解できた。午後からは、SIGNIS Japan の《ミッションステートメント（シグニスジャパンの使命についての宣言文）》の策定に向けてワークショップを

行った。参考事例としてのSIGNIS フィリピン作成の「ミッションステートメント」の説明のあと、「私たちがしてきたこと、できること、したいこと」について参加者一人ひとりがカードに書いて報告し、話し合いながらカードを付け加えてテーマを深めた。さらに「私たちの目標、使命、役割」についても同じようにしてわかちあった。今回は仮まとめ迄とし、定例会で更に煮詰めて正式版にすることとした。

午後一番には、構内にあるチマッティ資料館（写真）を訪問し、館長のコンプリ神父様から尊者チマッティ神父の逸話を伺い、記念品・写真や楽譜・収集品等々を見学した。勉強会後には地下聖堂でミサに与り、夜は調布駅前で千葉茂樹名誉会長の慰労会を持ち、みなで鍋を囲んで食事を共にした。締めは有志が、千葉茂樹脚本の映画「高原のお嬢さん」（1965年/日活）の主題歌を歌い、和やかな会となった。（土屋）



多磨全生園を訪ねて

5月、第40回を迎えた日本カトリック映画賞受賞作品『あん』をきっかけにハンセン病の語り部、森元美代治さんを介して多磨全生園を訪問する機会を得ることができました。

7月末、初めて清瀬の駅を降りバスで15分程行くと緑の中に全生園はありました。せみの声が響く中、静かな世界がありました。

森元さんは、病の原因・症状・治療の実態・社会の対応など優しい口調ながら熱を帯びて話してくれました。ハンセン病は非常に感染力の弱い菌が原因で現在は確実に治癒する病であること。療法が確立していない時期、その皮膚等の状態から、感染者を隔離するという政策がとられたこと。そのため名前を変えられ家族から離れて生きている証は、そのちいさな園の中でしかなかったこと。静かに話される言葉に、その苦しさが胸を絞め

付けます。人間は未知のものに対して不安を感じ、原因が解明できても一度心に残った不安は消えません。日々の自分には関係ない。知ってはいるが近づかない。ハンセン病患者に与えた仕打ちは、正に「愛の反対は無関心」ということであろうと思いました。せみ時雨のなか、緑の中の全生園の訪問は、改めて自分の振る舞いを意識するきっかけとなりました。

今回訪問時、園内をジョギングする近隣の方も見受けられました。少しずつ変わっていくのでしょうか。森元さん本当にありがとうございました。（千葉 Y）



マザー・テレサ列聖とつくしみ

2016年9月4日、コルカタのマザー・テレサは教皇フランシスコによって列聖されました。「マザー・テレサにとってつくしめは、自分の働きに味を付ける『塩』であると共に、貧困と苦しみのために涙も枯れ果てた人々を照らす『光』である」と世界各地からやってきた12万の参列者に、教皇は力強く語りかけました。帰天から僅か19年、その列聖は教会の歴史のなかでも異例の早さでした。

バチカンでの一連の式典が終わると、私たち家族はベルギーへ向かいました。東フランドル州の州都ゲントに住むドソーマーさん夫妻に会うためです。



今から34年前、この一家にマザー・テレサの「子供の家」から2歳のインドの女の子が養女として迎えられました。名前はラリータ、家族の深い愛に包まれて育ち、今は結婚して南米チリに住んでいます。ラリータに第二子が

誕生するので夫妻はまもなくチリに出発すると嬉しそうに語りました。72歳の2人にとってベルギーからチリへの旅は決して容易ではありません。それでも愛娘の新しい家族に一刻も早く会いたいです。「愛はまず家庭から始まるのです。愛は家庭に住まうものです」。家庭がいかに大切かをマザーは繰り返し語りました。だからこその子供は家庭で育てなければなりません。マザーにとって家族とは、血縁も国籍も言語も関係なく、愛を持って子供を大切に育てる人たちでした。

日本に帰って3週間後、ドソーマーさんから元気そうな男の赤ちゃんの写真が送られてきました。そこには喜びに包まれた一家の姿がありました。

神の愛とあわれみを強く信じたマザー・テレサ。そのマザーの仕事は単なる奉仕ではなく神のあわれみの仕事でした。混迷する今、そのあわれみの働きはどれほど求められていることでしょうか。マザー・テレサの列聖は、カトリック教会だけでなく全世界の人々にとって必要であり、急がねばならなかったのです。

(千葉好美さん カトリック百合ヶ丘教会)

*写真はバチカンでの千葉茂樹・好美夫妻

石川の「高山右近」

石川県は仏教、特に浄土真宗の盛んな土地で、今も多くの人が厚い信仰を持っています。その印象のせい、この地にユスト高山右近とその周囲のキリシタン武将や家臣たちが移住し教会を建ててキリスト教を盛んにしたことはあまり知られていないように思います。

豊臣秀吉から棄教を迫られた右近は堅く信仰を守り、明石の領地を捨て1588年初代藩主前田利家に招かれて加賀藩の客将となりました。以来、1614年に徳川家康の禁教令によりマニラに追放されるまでの26年間を金沢・能登で過ごしました。武将としての腕を買われ、金沢城の修築などを手がけるとともに、キリシタンを取り巻く状況が日々厳しくなる中で、自費で聖堂、司祭館を建立するなど、

金沢、能登のキリシタン社会のために力を尽くしました。

金沢教会の聖堂正面祭壇上には、高山右近、細川ガラシャほかを描かれた美しいステンドグラスがあり、静かに私たちを見守っています。ここで祈る時、400年以上前に北陸の地で過ごした右近を身近に感じ、迫害の中で信仰を守ったその情熱に思いを寄せます。



高山右近像
(カトリック金沢教会)

来年2月の列福式も間近に迫りました。金沢教会でも記念ミサが行われます。教会内には県内各地から発見されたキリシタン遺物が展示されていますので、是非ご覧になることをおすすめいたします。(泉)

賛助会員募集

と一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。年会費一口 3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org
会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 土屋 至
郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至